

□■受験対策ミニ講座 7号 2020□■ (養成所ニュースプラス第 13号)

みなさんは、鎌倉幕府が成立したとされる年号、1192年をどうやって覚えましたか? 「イクニ作ろう鎌倉幕府」でしょうか? もうひとつ「武士にイクニ鎌倉幕府」という覚え方があります。これには誰にとっての「いい国」だったのか? 圧倒的多数の農民にとって果たして「いい国」だったのでしょうか? そんな問いかけが含まれています。もし語呂合わせを作るなら、ソーシャルワークとしての思想を持ったものを作ってほしいものです。

今回はイギリスの歴史に関する問題です。

■Plus Quiz

【問題 7】イギリスの貧困対策の歴史について正しいものを選び。(28回 24 現代社会と福祉)

1. 新救貧法(1834年)は劣等処遇の原則を否定した。
2. 慈善組織協会(COS)(1869年)は救済に値する貧民に対する立法による救済を主張した。
3. ブースは、ロンドン貧困調査から「貧困線」という概念を示した。
4. 老齢年金法(1908年)は貧困高齢者に資力調査なしで年金を支給した。
5. ウェップ夫妻は「社会保障計画」を提唱した。

答えと解説は最後に記載してあります。

■Plus Column

【「福祉の一丁目一番地」を確実に】

19世紀末から20世紀初頭の福祉政策は例年、「現代社会と福祉」か「地域福祉の理論と方法」で、英国または日本のどちらかの歴史が出題されています。今回の設問は短文ですが、すべてが国家試験のキーワードです。

例えば、「劣等処遇の原則」一救済は最下級の労働者よりも実質・外見ともに低いものでなければならないとするこの考え方は、現在の私たちの社会の中にも影響を残していると言われ、憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」をめぐる論議につながります。他にもCOS、貧困線、資力調査、「社会保障計画」、さらに「ブースのロンドン調査」や「ナショナル・ミニマム(最低生活保障)」を提唱したウェップ夫妻など、まさに「福祉の一丁目一番地」とも言うべき人名やことがらが満載されています。ひとつひとつの言葉をテキストや社会福祉用語辞典で調べるといった地味な仕事をコツコツと続けていくことが、今、取り組むべきことです。

制度や政策の発展過程などを問う、いわゆる“歴史問題”は複数の科目で出題されています。全科目通して数問ですから、それほど比重が重いわけではないものの、歴史に強くなると確実に、関連事項全般の理解が進みます。過去問を見ると年号の丸暗記ですむような問題ではなく、内容的な深い理解が問われていることがわかります。重要なことは、科目の枠を超えて社会福祉の発展の大きな流れをつかんでおくことです。

前回もご紹介したように、おおまかな年表を作成して年号だけでなく、学習した内容をその都度、書き入れてみてください。国連、児童、障害、ソーシャルワーク理論などの欄を作るのもおすすめです。各科目で学んだことが横断的に整理され、日本と世界の関連を実感することができると思います。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【Plus Quiz 答えと解説】

1. ×新救貧法は「劣等処遇の原則」を採用しました。
2. ×COSは「救済に値する貧民」だけを対象に民間慈善事業が救済することを主張しました。「救済に値しない貧民」とは犯罪者や素行不良者などで、新救貧法の対象とされました。
3. ○
4. ×老齢年金法は、資力調査を行い所得制限がありました。

5. ×ウェブ夫妻が提唱したのはナショナル・ミニマムです（1897年）。「社会保障計画」は1942年ベヴァリッジ報告で示されたものです。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus